（別紙4） 令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凛成		
事業所名	グループホームひだまりの家 （2階）		
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1086-1		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 11 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873400378-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季折々の風景が豊かな、自然に恵まれ、毎年土手に咲く水仙の花や藤の花、ミカンの木、柿の木に季節をご利用者様と感じながらゆったりと過ごすことが出来ます。地域の方々が施設に足を運んで下さるのは秋祭りですが、顔馴染みの近所の方に避難訓練の参加をお願いしたり、毎年夏祭りには参加して地域との交流を図っています。施設内では高齢化が進んでいるご利用者様のケアを身体介護や寄り添いの介護をスタッフが関わりながら実践し、体調管理は看護師の連携があるので安心して任せることが出来ています。家庭的な雰囲気も感じられ、毎月の行事や催し物をレクリエーション担当スタッフが中心になって盛り上げてくれています。ご家族や身内の方も気軽に来られ自由に面会したり外出に連れ出して頂いたりして、自由な時間（空間）を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は四季折々の花に囲まれたのどかで静かな場所に立地されている。隣接地には近隣住民の好意で花が植えられており、事業所の窓から眺めることができ利用者の楽しみの一つとなっている。
長年従事している職員が多く、働きやすい環境が整っていることがうかがえる。利用者と職員が明るくコミュニケーションが取れており笑顔があふれている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項　目	○	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		自然
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

No.	項　目	○	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、事業所の理念と年間理念を唱和し理解しながら業務を行っている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の秋祭りではご家族とスタッフ、ボランティア、近隣の方々に参加して頂いて一緒に盛り上げている。町内のお祭りに招待され出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議では現状報告をしたり、行事の説明をしながら地域の方々に認知症への理解を求めている。また施設長が認知症サポーター講師として地域や市内の方々に認知症についての知識と理解を広めている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回、行事の報告、現在の入居状況などを報告をし、役員の方の意見や提案を聞きながらサービスに生かしている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に出席する市の担当者の方に入所希望の依頼や市内の現状を聞いたりしている。また市が主催する研修会にも意欲的にも参加している。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で身体拘束について学び、身体拘束をしないように心がけている。やむを得ない場合、運営基準で定められている身体拘束に関する条件を満たしているかを判断し、経過を記録するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学びあい、どのようなことが虐待なのかスタッフが理解し合い、注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者に対してはそのような制度を利用している。日常生活自立支援についての知識や成年後見制度について学ぶ機会を得ている。スタッフに知識を広めてもらえるよう研修や勉強会を開催するようにしているる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設長や看護師の説明のもと、ご家族が納得したうえで入居の手続きを行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に今の利用者についての現状や会社の雰囲気、意見や要望などのアンケートを実施した経過がある。また意見箱を玄関に設置している。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや毎日の朝礼で職員の意見を聞いている。業務の中でも、意見や提案を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、一年間のそれぞれの勤務実績（出勤日数、勤務態度等）を把握し、勤勉なスタッフには表彰を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行える様に年間の研修項目を決めているが、実行出来ない月もある。法人内外の研修にも意欲的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸太田市の連絡協議会などを通じて、勉強会などに参加して各施設での困りごと等のグループワークを実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでは、時間がかかるため入所時に本人や家族とよく関わりを持ち、要望等聞き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を聞きながら本人にとって、住みやすい環境になれるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、施設長や管理者、看護師をまじえて話し合い、ご本人がより良いサービスが受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護だけでなく、本人の立場に立ち寄り添いながら、ともに生活できるように仕事に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要品や変化があれば、ご家族に報告、相談している。面会時にも状況の報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族や友人や親戚の方も来訪している。家族の協力を得て帰宅したり、家族の協力を得て帰宅したり、家族やスタッフと一緒に外食などなじみの店へ出かけられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関わりや、その都度状態を見ながら対応できるように配慮し支援するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係を大事にし、さまざまな面でつながり合えるよう心がけている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場になり、一人一人の思いに沿った介護を行っている。各スタッフは、日常生活でつぶやいたことや変化があればケースに記録し、皆で共有していくように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を把握しながら、どのように関わりをもったらよいのかをミーティング等で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握しながら、変わったことがあればミーティングなどで今後の関わり合いについて話す場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が面会に来られた時には声掛け、状況報告し思いの共有、本人の暮らしやすい為の課題を管理者、スタッフで話し合い共有することからケアプランに繋げる様にしている。状態や変化のモリタリングも欠かせない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや朝の朝礼で情報を共有するよう努めている。変化や意見なども朝礼やミーティングの際に確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りにも取り組んでいる。その際かかりつけ医と家族とスタッフが話し合い、どのようなサービスを提供するか取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺は、緑ゆたかで、暖かい時には外でお茶を飲んだり昼ご飯をたべたりしている。買い物するときは、ドライブをしながら車で出かける事も時々ある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者に合った医療を受けられるよう、入所時に今までの状態をふまえながらかかりつけ医を決めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より看護師が利用者の健康状態を確認し、その上で介護スタッフが変化や気つ”いたことがあれば、看護師に報告している。利用者に合った医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になったときには、看護師や施設長、管理者がどのような状態になっているかを面会し確認している。そのうえで医療機関と連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成28年度より看取りを導入している。毎日の状態を確認記録し、家族がいつ来てもどのような状態だったかを見ることができるようにしている。なにか変わったことがあれば家族、医療機関と話し合いをもち方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内容の合った研修や避難訓練を行った時には、応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は地元消防団の方や地域の方に参加して頂き消防訓練を行っていた。現在は施設内で行うことが多い。主に昼間や夜中で火災想定で行っているが、地震想定の避難訓練を行いたいと考えている。備蓄品リストを作成し備えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場になり、本人に寄り添いながら丁寧な言葉で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、声かけしながら本人の思いや不安がないか聞き出すよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがストレスをためないように、また不安にならないように、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを傾聴しながら、希望にそった身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもではないが、調理スタッフの方が持ってきてくれた野菜の皮をむいて貰ったり、食器拭きを楽しんで手伝って貰っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べた量、水分量を記録し把握している。食事や水分が足りない方は、食べやすい物や好みの飲み物を提供している。また社長と調理スタッフとで集まり、どのような食事を提供したらいいか相談の場を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に声かけし口腔ケアを実施し、清潔を保てるようスタッフが手伝っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の状態を確認記録しているので、排泄パターンを把握している。トイレで排泄出来るように誘導を行い、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、適度な運動や水分を多めに摂ってもらっている。それでも出ない場合は、お薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に清潔を保てるよう入浴を心がけている。できるだけ本人の希望があった時には、楽しんで入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールには畳があり、利用者と一緒に話をしながら洗濯物を干したり畳んだりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については看護師が全て把握しており、変更があった場合には申し送りのノートでスタッフに分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、誕生会や季節に応じてドライブを兼ねての外出、イベントがありその都度その状況に合わせた食事やデザートが出される。利用者と一緒に楽しむ事ができ気分転換もはかれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は利用者の高齢化もあり遠くに外出するには困難になってきた。そのため暖かい日を選んだりタイミングを見て近場でも楽しんでいただけるよう計画している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かることが多いが、一部ご家族からおこずかいを頂く利用者もいる。その場合本人に確認しながら把握するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や家に帰りたいなどの時は、連絡をとり安心できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では誰が来てもいいように掃除をしているので、清潔を保てている。季節に合った花を玄関やホールにおいたり、またホールには利用者が手伝ったカレンダーや飾り、塗り絵が飾ってあり季節感を感じる事ができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子があり、利用者同士でコミュニケーションをとったり、外の景色を見る事ができる。利用者同士歩きながら軽い運動をする事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物や好みの物をご家族に持ってきていただき今までと変わらない環境を作り居心地よく過ごせるよう努力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広々としており、一人ひとりの願いや思いをくみとり居室やホールを自由に行き来できるように対応している。		